

令和6年度 前期授業評価の結果について

令和7年1月10日

宮城県南三陸高等学校 教務部

本校では、前期と後期の年2回、授業をよりよく改善していくために、教員の授業について下記の①～⑭項目に関し生徒による授業評価を行っております。

今年度の前期授業評価について、結果・分析がまとまりましたので報告いたします。

I アンケートの実施結果（教科別）

実施日 令和6年9月6日～9月24日

* 各項目について

【そう思う＝4 ややそう思う＝3 あまりそう思わない＝2 そう思わない＝1】と点数化し、それを平均したものが以下に示される数値です。その際、平均値は2.5になります。

『あなた自身に関する質問事項』	国語	社会	数学	理科	英語	保体	家庭	芸術	情報	商業	平均	昨年度（前期） の数値
①先生の話を理解しようと努めている。	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7
②分からないことは、誰か（先生や友達）に質問するようにしている。	3.5	3.2	3.4	3.4	3.3	3.5	3.4	3.4	3.0	3.4	3.3	3.5
③予習をして授業に臨んでいる。*体育、音楽、美術については回答せず、保体は保健のみの数値。	2.1	1.9	2.1	2.1	2.2	2.1	2.3	-	2.2	2.3	2.1	2.2
④復習をして授業に臨んでいる。*体育、音楽、美術については回答せず、保体は保健のみの数値。	2.5	2.3	2.5	2.3	2.4	2.4	2.5	-	2.4	2.4	2.4	2.5
⑤提出物の提出期限を守っている。	3.6	3.7	3.5	3.7	3.6	3.7	3.6	3.6	3.5	3.4	3.6	3.7

『先生や授業に関する質問事項』	国語	社会	数学	理科	英語	保体	家庭	芸術	情報	商業	平均	昨年度（前期） の数値
⑥先生は十分な準備をしている。	3.8	3.8	3.7	3.8	3.7	3.9	3.9	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8
⑦授業では大切なポイントが示されている。*例えば、授業の始めに、その授業での到達目標が示されている。	3.8	3.7	3.6	3.8	3.7	3.8	3.8	3.7	3.8	3.7	3.7	3.8
⑧授業の進む速さは適切である。	3.8	3.7	3.5	3.8	3.6	3.8	3.8	3.8	3.8	3.6	3.7	3.7
⑨先生の指示がよくわかる。	3.7	3.7	3.5	3.8	3.5	3.8	3.8	3.7	3.8	3.6	3.7	3.7
⑩板書が見やすい。*体育については回答せず、保体は保健のみの数値。	3.8	3.7	3.7	3.8	3.6	3.7	3.8	3.5	3.7	3.6	3.7	3.7
⑪先生は生徒の反応を大事にしている。	3.8	3.7	3.6	3.8	3.7	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7
⑫使用している教科書や副教材は学習に役立っている。	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.9	3.5	3.7	3.7
⑬定期考査（または実技試験）の内容は、授業に沿ったものである。	3.8	3.6	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.9	3.7	3.8	3.8
⑭授業を通して得たものは多い。	3.7	3.5	3.4	3.6	3.6	3.8	3.8	3.6	3.7	3.6	3.6	3.7

⑮授業をよりよくするためにどうしたらよいか、意見や要望があったら書きなさい。

・授業が楽しいです。・見づらいなので緑のチョークの使用をできるだけ控えてほしいです。・習熟度別にクラスが分かれなくても大丈夫だと思います。・もう少しゆっくり書くところを提示してほしいです。・授業の一環で行った外部のイベントへの参加や南三陸復興観光ガイドをまた行いたい。

2 アンケートの結果分析

【全体分析】

昨年度の前期と比較し、『②分からないことは、誰かに質問するようにしている』『③予習をして授業に臨んでいる』『④復習をして授業に臨んでいる』『⑤提出物の提出期限を守っている』の4項目で0.1ポイント又は0.2ポイント下がっている。科目により、予習に重きをおく、復習に重きをおく等あるが、予習・復習を通じて授業内容を定着させ、生徒の定着度を測りながら、前期の内容で積み残しがないように支援していくことが求められる。

国語	1	予習・復習をして授業に臨んでいる生徒や提出期限を守っている生徒が前年度よりわずかに低下している。家庭学習の習慣が身についていないと推測されるので、授業中での声かけや課題に工夫をしていきたい。
	2	昨年度の数値から比べると改善されている箇所が多い。引き続き生徒の興味関心を高めて生徒にとって魅力のある授業作りをしていきたい。習熟度別で考えると上の層と下の層の幅が広がりすぎている懸念があるので授業の中で改善していきたい。
社会	1	昨年度の数値から比べるとほとんどの数値がマイナスとなっている。この結果をしっかりと受け止め、今後の授業改善につなげていきたい。
	2	生徒にとって魅力ある授業を心掛ける。歴史を学ぶ意義や、その学習がどのように役立たせることができるのか、具体的な内容を指示しながら、生徒の興味関心を高めていくようにしていきたい。
数学	1	予習・復習をして授業に臨んでいる生徒の割合が低いことから、家庭学習の習慣が身についていないと思われる。授業の進む速さ・生徒の反応の項目が昨年度より低くなっている。
	2	提出物の期限を守っている生徒が多いことから、予習・復習に結びつく課題となるような工夫を行いたい。習熟度別指導を生かし、生徒の反応を大切にしながら丁寧な授業展開をしていきたい。
理科	1	「先生の話を理解しようと努めている。」生徒の割合が多く、意欲的に学ぶ姿勢が見られる。しかし、予習、復習に取り組む生徒が少ない傾向がある。先生や授業に対して、⑥～⑩、⑬は3.8ポイントと高評価であるが、⑭「授業を通して得たものは多い」の項目が3.6ポイントと少し低い。
	2	授業への取り組みは良好である。予習、復習については、適宜生徒に声かけをしていきたい。授業については、STEAM教育を意識した実験や観察、ICTの効果的な活用を意識的に行っていききたい。そして、授業の中で生徒がなるほどと納得できる説明や興味をひきつける理科の体験をすることで主体的な学びを引き出したい。
英語	1	「分からないことは、誰か（先生や友達）に質問するようにしている。」「復習をして授業に臨んでいる」の割合が低く、授業中の積み残しが多いことが懸念される。定着指導を手厚くすること、自力解決能力の向上を測る指導を充実させていきたい。
	2	「授業を通して得たものは多い。」の割合が低いが、自己の能力よりちょっと難しい「i+1」の言語活動を通じて、本当の自己達成感を生徒の中に醸成していきたい。暗記活動ではなく、場面・状況・目的を設定した言語活動を通じて卒業後も活用できる英語力を生徒の中に残していきたい。
保体	1	昨年度と比べて、特に変化は感じられなかった。予習復習をする習慣はないが、「先生の話を理解しようとしている」の割合が高いことから、意欲的に学ぶ姿勢が見られる。
	2	わかりやすい授業を行うべく、ICTを活用し視覚的・聴覚的に働きかける授業を展開していきたい。また、生徒の理解度を確認しながら、実生活とのつながりを意識した指導を行いたい。
家庭	1	生徒は全体的に意欲的に取り組んでいる。予習・復習に関しての項目の値がとても低い。アンケート記入の際に家庭科の授業で学んだことを実生活に活かすことであることを伝えれば数値がもう少し上がるのではないかと後期に期待する。
	2	教科や資料集を活用しながら、授業で得たものを実生活で活かせるように、より実践的な内容を取り入れた授業作りをしていきたい。
芸術	1	授業を通して得たものは多いという項目が3.6ポイントと全体的に低く出ている。板書が見やすいというポイントも3.5とさらに低く出ている。
	2	実技教科の特性上板書事項は少ないが、全く使用しないということでもないため、文字の大きさや資料の提示の仕方を工夫して行きたい。また、授業を通して得たものは多いという項目について生徒の実生活に即するような題材を取り上げて、生徒が受けて良かったと思えるような授業作りを心掛けたい。
情報	1	「③予習をして授業に臨んでいる」「④復習をして授業に臨んでいる」の2項目について、他の項目よりも低い結果となっている。また、「②分からないことは、誰かに質問するようにしている」についても、他の項目と比較して低い結果となっている。
	2	③については、科目の特性上積極的に実施していない。④については、副教材が授業の復習に繋がっていることを生徒に周知する。②については、単位数上余裕を持って授業が行えていない現状があるが、授業構成を工夫して生徒が学び合える時間を確保したい。
商業	1	低い項目について。③：科目の特性上積極的に実施していない。④が低い：家庭学習の習慣が身についていないため。⑤：多様な生徒がおり、理解度にばらつきがある。⑫：副教材は活用頻度が高いが、教科書については文章の読み等に苦手意識を持つ生徒が多数いるため、ポイントをしばって活用している。
	2	③・④：家庭学習を習慣化させるため、工夫した授業形態（反転学習等）を取り入れる。⑧：TT授業で連携をはかり、個別に支援する。⑫：授業展開を工夫し、教科書の活用機会を増やす。